

平成 25 年度 教育・学生支援センター 自己評価報告書

I. 沿革及び設置目的

(沿革)

- 平成 15 年 10 月 宮崎大学と宮崎医科大学の統合を契機に大学教育研究企画センターが設置される
- 平成 19 年 4 月 生涯学習教育研究センターと大学教育研究企画センターを統合し、教育研究・地域連携センターとして設置される
- 平成 22 年 10 月 教育研究・地域連携センターを改組し、教育・学生支援センターとして設置される

(設置目的)

教育・学生支援センターは、宮崎大学における学士及び大学院教育の内容・方法の改善、学生に対する学習、課外活動、経済・生活の支援及びキャリア支援に関する事業を推進・支援するために設置された。

II. 教育研究等の目的及びミッション

1. 教育研究等の目的・目標及び養成する人材

本センター設置目的に則り、本学学生の教育及び学生支援の発展・充実に寄与することを目的とする。

2. 教育・学生支援センターのミッション（強みや特色、社会的責任）

本センターは、教育企画部門と学生支援部門からなり、大学教育に関わる企画事業と学生支援事業を行う。

(1) 教育企画部門のミッション

- ・ 共通教育（平成 26 年度から基礎教育）、専門教育から大学院教育までの大学教育の在り方に関わる研究を中心に、教育方法、教育環境の改善を図る。

(2) 学生支援部門のミッション

- ・ 大学が果たす学習支援の方策に則り、課外活動、経済・生活支援及びキャリア支援に関する事業を推進する。

III. ミッションを実現する活動状況

1. 「教育企画部門」のミッションを実現する活動

- ・ 前年度取り組んできた学士課程教育の検討に積極的に取り組み、現行教育課程の現状調査を完了し、本年度は平成 26 年度から実施する学士課程教育の点検（①カリキュラムマトリックスの作成、②カリキュラムの体系的・順次性の点検、③カリキュラムポリシーの策定（ディプロマポリシーの点検を含む）、④カリキュラムフローチャートの作成）を行った。
- ・ ディプロマポリシーに掲げる育成する資質・能力に係る授業科目の履修状況、到達度を点検するウェブシステムを開発した。平成 26 年度から全学での運用を行うことになった。
- ・ 教育の内部質保証システムの構築について、大学教育委員会へ提言を行い、質保証・向上委員会を設置することになった。

2. 「学生支援部門」のミッションを実現する活動

- ・学生支援に関する各部局間の情報共有や連携の推進、教職員の意識向上を図るため、障がい学生修学支援連絡会、学生支援カンファレンス、学生支援フォーラムなどを実施した。
- ・学生なんでも相談室について、新入生及びその保護者への周知を図るため、リーフレットの作成・配付を行った。
- ・全1年生を対象とした「進路意識調査」を、平成24年度より継続的に実施（結果は各学部へフィードバック）し、早期からのキャリア支援の取組を行った。

IV. 活動状況の自己点検評価

1. 教育活動

1-1. 教育活動の状況

1-1-1. 教育実施体制

(1) 学士課程

①教員組織編成や教育体制の工夫とその効果

- ・教育・学生支援センターとして、専任教員の専門分野に関連のある部局の教育に貢献した。
- ・共通教育部における授業科目を担当し本学の教養教育の充実に貢献した。
 - (1)本学の英語学習プログラム「国際的に活躍できる専門職業人育成を目指した学士課程一貫の英語学習プログラム」における1年次共通教育英語科目において、eラーニングを活用し、英語基礎運用能力（語彙力・文法力）の育成を図った。
 - (2)上記プログラム2年次共通教育科目「英語3」において、英語運用能力の向上を図るためにTOEIC対策コースを開設し、約400名が受講した。
 - (3)上記プログラム2年次共通教育「英語4」において、eラーニングによるライティングコースを開設した。
 - (4)上記プログラムにおいて、単位の実質化を実現する授業運営を行い、厳格な成績評価を実施した。
- ・教育文化学部における教科専門科目を担当し教員養成プログラムに貢献した。

②入学者選抜方法の工夫とその効果

- ・入学試験とGPAの相関を調査し選抜方法を点検した。調査結果は、役員会及びアドミッション委員会へ報告し検討されている。

③教育の質の改善・向上を図るための取組

- ・教育の内部質保証システムの構築について、大学教育委員会へ提言を行い、質保証・向上委員会を設置することになった。

(2) 大学院課程

- ・教職大学院の必修科目・選択科目を担当し、教員養成プログラムに貢献した。

1-1-2. 教育内容・方法

(1) 学士課程

①体系的な教育課程の編成状況

- ・平成26年度実施に向けた学士課程教育の再編の取り組みとして、大学教育委員会の下に学士課程教育検討専門委員会が設置定され、センター部門長、センター教員が中心的に検討に参加し、基礎教育と専門教育を一貫する学士課程教育プログラムを構築した。
- ・すべての学部、学科・課程（コース）において、平成25年度までのカリキュラムと平成26年度からの新カリキュラムのカリキュラムマトリックスを作成し、ディプロマポリシーに掲げている育成する資質・能力と授業科目の関連づけを行った。

- ・すべての学部、学科・課程（コース）において、平成 25 年度までのカリキュラムと平成 26 年度からの新カリキュラムのカリキュラムフローチャートを作成し、カリキュラムの体系化の点検を行った。
- ②学生のニーズ及び社会のニーズに対応した教育課程の編成・実施上の工夫
 - ・新入生を対象とする学習調査（学習カルテⅠ）、2年次生を対象とする学習調査（学習カルテⅡ年次）及び卒業年次生を対象とする学習調査（学習カルテⅡ）を実施し、学生のニーズをくみ上げている。
 - ・学習カルテⅠ、Ⅱの調査結果を全学 FD 研修会で報告し、教育改善の提言を行うとともに、学生指導に関する議論を行った。
- ③養成人材像に応じた教育方法や自主的学習を促す教育指導方法の工夫
 - ・本学の掲げる教育のスローガン「宮崎に学び、未来をきり拓く人材（グローバルデザイナー）」を育成するために、平成 26 年度から実施する基礎教育に「課題発見科目」を設定しアクティブラーニングを積極的に導入する教育プログラムを構築した。
 - ・平成 26 年度からアクティブラーニングを導入するにあたり、研修会を企画・開催した。

第 1 回アクティブラーニング研修会(8 月 8 日開催)

分野：課題発見科目（現代社会の課題）

第 2 回アクティブラーニング研修会(8 月 22 日開催)

分野：大学教育入門セミナー

第 3 回アクティブラーニング研修会(9 月 20 日開催)

分野：課題発見科目（現代社会の課題）

第 4 回アクティブラーニング研修会(10 月 25 日開催)

分野：課題発見科目（環境と生命）

第 5 回アクティブラーニング研修会(11 月 29 日開催)

分野：大学教育入門セミナー

(2) 大学院課程

①体系的な教育課程の編成状況

- ・すべての研究科、専攻において、カリキュラムマトリックスを作成し、ディプロマポリシーに掲げている育成する資質・能力と授業科目の関連づけを行った。

1-2. 教育成果の状況

(1) 学士課程

①履修・修了状況から判断される学習成果の状況

- ・英語学習プログラム実施委員会において、本センターが中心となり、平成 22 年度から導入された学士一貫の英語学習プログラムの学習効果を継続して測定する調査を行っている。
- ・前期、後期毎にすべての学部、学科・課程において、履修状況（GPA、登録単位、取得単位）を調査し、大学教育委員会へ報告した。学部においては調査結果を検討し、履修指導等に活用している。
- ・前期、後期毎にすべての学部、学科・課程において、GPC を調査し、大学教育委員会へ報告した。学部においては調査結果を検討し、厳格な成績評価に向けた改善へ役立てている。
- ・ディプロマポリシーに掲げる育成する資質・能力に係る授業科目の履修状況、到達度を点検するウェブシステムを開発した。

②資格取得、学外試験受験結果、学会発表・論文、受賞・表彰等から判断される学習成

果の状況

- ・平成 26 年度大学機関別認証評価受審にあたり、すべての学部、学科・課程において、資格取得、学会発表・論文、受賞・表彰状況の調査を行った。調査結果は認証評価自己評価書に掲載している。
- ③学業の成果の達成度や満足度に関する学生アンケート等の調査結果とその分析結果
 - ・2年次生を対象とする学習調査（学習カルテ 2 年次）及び卒業年次生を対象とする学習調査（学習カルテ II）により、学業の成果の達成度や満足度を把握している。分析の結果、共通教育と専門教育においては、課題解決力などをはじめ、達成度について大きな隔たりがあることが明らかになった。これを受けて学士課程教育検討専門委員会では、基礎教育と専門教育を一貫する学士課程教育プログラムを構築した。
- ④進路・就職状況、その他の状況から判断される在学中の学業の成果の状況
 - ・学務情報システムに基づいて、在学中の学業成績と進路・就職状況の調査に着手した。システムから取得できる情報が限られているため、経年調査を継続していく必要性がある。

(2) 大学院課程

- ①履修・修了状況から判断される学習成果の状況
 - ・前期、後期毎にすべての研究科（医科学看護学研究科、医学獣医学総合研究科を除く）において、履修状況（GPA、登録単位、取得単位）を調査し、大学教育委員会へ報告した。研究科においては調査結果を検討し、履修指導等に活用している。
 - ・前期、後期毎にすべての研究科（医科学看護学研究科、医学獣医学総合研究科を除く）において、GPC を調査し、大学教育委員会へ報告した。研究科においては調査結果を検討し、厳格な成績評価に向けた改善へ役立てている。

1-3. 学生支援の状況と効果

(1) 学士課程

- ①履修・学習の支援の状況と成果
 - ・授業科目の履修状況、得点分布、到達度を点検するウェブシステムを開発した。
 - ・「障がい学生修学支援連絡会」（平成 24 年度より）を実施し、各部局間での情報共有や連携の推進を図った。
- ②学生生活の支援の状況と成果
 - ・障がい学生等に対するより良い支援の在り方についての教職員の意識向上を図るために、安全衛生保健センターと本センターが協力して、学生支援フォーラムを 2 回開催した。
 - ・学生の学修・生活相談を行う学生なんでも相談室について、新入生及びその保護者向けのリーフレット（「学生相談のご案内」）の作成・配付を行い、周知を図った。
 - ・安全衛生保健センターとの学生支援カンファレンス（月 1 回）を実施し、各学部からの参加も得て、情報共有の体制強化を進めた。
- ③キャリア支援の状況と成果
 - ・1年次生を対象に、大学入門セミナーを活用して、「進路意識調査」を実施した。その結果は、学生委員会、キャリアサポート専門委員会で報告し、各学部へのフィードバックを行った。
 - ・キャリア支援課と連携し、就職ガイダンスや就職相談を実施した。
 - ・学生委員会、キャリアサポート専門委員会と連携し、「とっても元気！宮大チャレンジ・プログラム」（20 企画）の運営を支援した。

(2) 大学院課程

①履修・学習の支援の状況と成果

- ・授業科目の履修状況、得点分布、到達度を点検するウェブシステムを開発した。

1-4. 改善のための取組

①教育活動の質の保証の体制

- ・大学教育委員会の下部組織の FD 専門委員会にセンターが中心に関わり、全学の FD・SD 研修会を次の通り 3 回開催した。

第 1 回宮崎大学 FD/SD 研修会(7 月 12 日開催)

講演：「ポートフォリオの意義と効果を考える」

講師：森本康彦（東京学芸大学准教授）

ワークショップ：eポートフォリオの体験

第 2 回宮崎大学 FD/SD 研修会(9 月 27 日開催)

講演：「産学共同による教育実践とその意義の検証」

講師：山下仁司（ベネッセ教育開発センター主席研究員）

報告：「学生調査の結果にあらわれる学習成果：宮崎大学『学習カルテ I・II』の結果より」

報告者：藤埴智一（宮崎大学教育・学生支援センター准教授）

第 3 回宮崎大学 FD/SD 研修会

（共通教育、COC、FD 専門委員会合同研修会）(3 月 7 日開催)

テーマ：共通教育部から基礎教育部への提言

テーマ：教育の内部質保証システムを構築する

②改善を要する点等の改善状況

- ・大学教育と学生支援という 2 つのミッションを効率的に企画・運営する方策を検討するという課題に対して、大学教育委員会及び学生委員会を通じて各部局と連携を密にして、FD 活動、学生支援の事業を実施した。

③今後の課題

- ・教育の内部質保証システムの在り方を提言し、教育の質保証・向上を推進する。
- ・学生支援フォーラムを、より少人数で、深い討論が可能な形にすることなど、今後の開催のあり方について検討中である。

2. 研究活動

2-1. 研究活動の状況

①論文・著書等の研究業績や学会での研究発表の状況

- ・学長裁量による戦略重点経費として「英語運用能力向上を目指す集中講座」が採択され、工学部と農学部において専門教育に資する英語講座を実施した。
- ・戦略重点経費として「英語運用能力を検証する学習到達度調査」が採択され、TOEIC[®] 試験を実施し、1・2 年次の英語学習の到達度を継続して測定し調査を行った。さらに、本学として、TOEIC[®] SW（スピーキング・ライティング）を実施した。

【論文】

藤埴智一, 2014, 「学習者の主体性に着目した T 字型人材に関する一考察」『教育学研究紀要』中国四国教育学会, 59: 497-502.

【学会発表】

- ・藤埴智一, 2013, 「工学部にみられる消費者セグメント：学生の主体性に関する分析から」日本高等教育学会第 16 回大会発表, 広島大学, 2013 年 5 月 26 日（同発表要旨集録, 125-126）.
- ・Fujitsuka, T., 2013, “Independent Learners in Japanese Higher Education:

Analysis of a National Student Survey,” Paper for presentation in XV World Congress of World Council of Comparative Education Societies, School of Economics , Buenos Aires University, Buenos Aires, Argentina, 27 June 2013.

- ・藤墳智一, 2013, 「主体的学習に関する大学教員の意識」 日本教育社会学会第 65 回大会発表, 埼玉大学, 2013 年 9 月 21 日 (同発表要旨集録, 100-101) .
- ・藤墳智一, 2013, 「学習者の主体性に着目した T 字型人材に関する一考察」 中国四国教育学会第 65 回大会発表, 高知工科大学, 2013 年 11 月 3 日.

②外部資金等による研究実施状況

- ・基盤研究(B) (一般)「国際的な環境変化に伴う我が国の高等教育システムの機能別分化と規模適正化」, 研究代表者: 藤墳智一.

(概要)大学の機能を学生のタイプと教員のタイプから分析し、国内の機関間の相違と日本の特性を解明。

- ・挑戦的萌芽研究「理工系学士課程における課題解決能力の育成」, 研究代表者: 藤墳智一.

(概要)抽象的な課題解決能力の概念を教育の実践の観点から学際的に分析し、詳細を定義。

- ・基盤研究(A)「キャリア・職業教育による高等教育の機能的分化と質保証枠組みに関する研究」, 研究代表者: 吉本圭一 (九州大学), 研究分担者: 藤墳智一.

(概要)大学内部の機能の変化、多様性を外部の卒業生や関連企業というキャリアの観点から実証的に検証。

- ・基盤研究 (C) (一般)「大学の環境適応: 組織構造・規模の成立と変容に関する分析と適正性の推定」, 研究代表者: 村澤昌崇 (広島大学), 研究分担者: 藤墳智一.

(概要)経営組織の観点から教育改革の実例を日米の大学で比較し、共通点と相違点を解明。

- ・文部科学省「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進」事業, 「中核的専門人材育成のためのグローバル・コンソーシアム」(代表校: 九州大学) 研究協力者: 藤墳智一

(概要) 国際的環境の変化に応じた高等教育における職業資格、職業能力の定義について先進諸国の実態を調査。

③外部資金等の受入状況

- ・基盤研究(B) (一般)「国際的な環境変化に伴う我が国の高等教育システムの機能別分化と規模適正化」 直接経費 3,200 千円 間接経費 960 千円
- ・挑戦的萌芽研究「理工系学士課程における課題解決能力の育成」 直接経費 950 千円 間接経費 285 千円
- ・基盤研究(A)「キャリア・職業教育による高等教育の機能的分化と質保証枠組みに関する研究」 直接経費 150 千円 間接経費 45 千円
- ・基盤研究 (C) (一般)「大学の環境適応: 組織構造・規模の成立と変容に関する分析と適正性の推定」 直接経費 50 千円 間接経費 15 千円

3. 社会連携・社会貢献活動

3-1. 社会連携・社会貢献活動の状況

①社会連携・社会貢献活動の計画と具体的方針

- ・センター教員が高等教育コンソーシアム宮崎の運営委員会委員、企画会議委員、及び諸事業の実施委員会委員として、コーディネート科目事業、単位互換事業、インターンシップ事業、就職支援事業、FD 事業を企画し地域連携・地域貢献を推進する。

②社会連携・社会貢献活動の公表の状況

- ・センターのホームページを通じて高等教育コンソーシアム事業を紹介している。

- ・高等教育コンソーシアム宮崎のホームページを通じて事業案内と実施報告を行っている。
- ③社会連携・社会貢献活動計画に基づいた活動の内容・方法及び活動の実施体制
 - ・高等教育コンソーシアム宮崎の事業として公募による卒業研究事業を企画し、成果発表会を開催した。
 - ・高等教育コンソーシアム宮崎の事業として主に県内の高校一年生を対象とする授業体験会を企画し、実施した。
 - ・高等教育コンソーシアム宮崎の事業として、インターンシップ参加学生を対象とする事前研修会を企画し、実施した。
- ④教育サービス活動・学習機会の提供の状況
 - ・宮崎南高校への公開授業の運営を行った。
 - ・生目台地区の寺子屋の運営への協力（講師となる教職大学院生の募集等）を行った。
- ⑤地域社会づくりへの参画の状況
 - ・該当なし
- ⑥履修証明プログラムの実施体制、実施方法及び実施状況
 - ・該当なし

3-2. 社会連携・社会貢献活動の成果

- ①活動の成果
 - ・高等教育コンソーシアム宮崎の事業に中心に関わり、コーディネート科目事業、単位互換事業、インターンシップ事業、就職支援事業、FD事業を企画し地域連携・地域貢献を推進した。

3-3. 改善のための取組

- ①社会連携・社会貢献活動の質の保証の体制
 - ・高等教育コンソーシアム宮崎の委員会構成及び事業の点検・見直しを行い、コンソーシアム事業の活性化を図る。
- ②改善を要する点等の改善状況
 - ・高等教育コンソーシアム宮崎の委員会構成及び事業の点検・見直しを行い、部会の構成を変更した。
- ③今後の課題
 - ・見直した部会構成により、高等教育コンソーシアム宮崎の事業の活性化を図る。

4. 管理運営体制及びその他

4-1. 管理運営体制及びその他の状況

- ①管理運営体制・事務組織
 - ・センター内の組織に、教育企画部門と学生支援部門を設置し、大学教育に関わる企画事業と学生支援事業を行っている。当センターの事務所掌は学生支援部が行っており、部門毎に、担当課が連携して活動を支援している。
- ②教員の採用・昇格の基準や業績評価方法
 - ・当センターにおける任期付き教員の再任審査に関する申し合わせを制定、また、本学の教員個人評価の基本方針および教員評価実施細目に基づき、センター教員の個人評価実施要項を制定し、運用している。
- ③教育研究を行うための施設・設備
 - ・平成22年10月の改組に伴い、大学会館3階に当センターを設置。専任教員3名の研究室を確保している。
- ④教育研究等の情報の適切な公表と積極的な発信および個人情報の保護等への配慮

- ・ホームページを作成し、当センターの活動状況等の情報を発信している。
- ・個人情報の保護については、本学の個人情報保護規則を遵守し、適切に管理している。

4-2. 管理運営体制及びその他の成果

- ・専門委員会（キャリアサポート専門委員会）の委員長をセンター部門長（学生支援担当）が担当することで、学内施策の企画組織としての機能を強化した。

V. 今年度の活動総合評価

1. 活動状況の自己総合評価

良好である

おおむね良好である。

不十分である。

2. 判断理由

- ・学士課程教育検討専門委員会における学士課程教育の検討に積極的に取り組み、現行教育課程の現状調査及び平成 26 年度から実施する学士課程教育の点検（①カリキュラムマトリックスの作成、②カリキュラムの体系性・順次性の点検、③カリキュラムポリシーの策定（ディプロマポリシーの点検を含む）、④カリキュラムフローチャートの作成）を完了した。
- ・ディプロマポリシーに掲げる育成する資質・能力に関する授業科目の履修状況、到達度を点検するウェブシステムを開発した。
- ・教育の内部質保証システムの構築について、大学教育委員会へ提言を行い、質保証・向上委員会を設置するなど、教育の質保証の在り方を推進した。
- ・障がいのある学生への支援等において、部局間の情報共有と連携を図ることができた。
- ・就職内定率をここ数年上昇させることができています。